1.雲仙普賢岳小火孔からの火炎現象．1993年９月15日，仁田峠の第２展望台から溶岩ドームを観察した．写真左端が屏風岩で，その真下に普賢神社の鳥居が小さく見える．写真の中央から右側にかけて盛んに噴煙を吹き出しているのが溶岩ドームの西端部である．日が暮れてカメラを構えると第３溶岩ドーム西側の小火孔から火山ガスが燃え上がる火炎現象か，あるいは火映現象を確認できた．火孔の吹き出し口は辺りが暗くなるにしたがって赤みを帯び，ピンク色から次第にオレンジ色に変わっていった．この写真は赤熱状態にある小火孔の位置を明瞭に示す貴重な記録となった．普賢神社は撮影後の12月の噴火活動で鳥居を含めて破壊され，新たな溶岩に完全に埋没してしまった．なお，この写真撮影は長崎県雲仙公園管理事務所及び環境庁雲仙温泉管理官事務所の許可と指導のもとに行われたものであることを付記する．

雲仙普賢岳の噴火活動

1990年11月17日，雲仙普賢岳は198年ぶりに突如として活動を開始した．当初，秋空にたなびく噴煙を見上げながら新しい観光名所ができたなどと話していたが，半年後様子は一変した．水無川での土石流の発生，溶岩ドームの出現，火砕流の発生，降灰，警戒区域の設定，住民の避難など噴火活動は住民の予測をはるかに越えるスピードで進行し，新たなる事態が次々とやってきた．噴火から３年余，山紫水明の故郷は今無残にも荒野と化しつつある．そして現在もまだ噴火活動は継続中だが，地元住民として見た今日までの噴火活動を，1991年５月から1993年９月に撮影した写真をもとに紹介する．

（島原市役所　杉本伸一）

2.1991年５月15日未明発生の土石流が溢れた北上木場町平原橋．この橋は，岩などが堆積し氾濫する恐れがあるため，５月18日取り壊された．（５月15日撮影）

3.星空の下，崩落する溶岩に赤く照らされる第4溶岩ドーム.（1991年9月28日午後11時半頃，島原市上折橋町の通称「蝮の茶畑」にて約25分間露出して撮影）

4.土石流によってV字形に削り取られた水無川上流部．平原橋の上流約2km地点．（1991年5月17日撮影）

5.（上）1991年6月3日午後4時半頃，灰混じりの雨の中，大規模火砕流による負傷者の救出に向かう救急車と避難する住民.（島原市秩父が浦町にて撮影）

6.（左）赤く浮かび上がる火砕流の雲と眉山を照らす火山雷.（1991年9月15日午後7時頃，避難先の江戸丁から撮影）

7.燃える赤松谷．第６溶岩ドームの崩落により赤松谷で火災が発生．目の前でめらめらと燃え上がる木々．（1991年12月23日午後10時40分頃，深江町山の寺ボタン山にて撮影）

8.山肌から突き出た第７溶岩ドーム．第６溶岩ドームの南側に出現した第７溶岩ドームは山肌の斜面から突き出し，悪魔の角のように見えた.（1992年４月14日，深江町岩床山にて撮影）

9.第３溶岩ドームの基部に見えた規則正しいひび割れ．（1992年11月26日撮影）